

ブラジル社会との共存共栄

—教育・貧困問題の解消に向けて

旭硝子(株) CSR 室 CSR 推進グループ
グループリーダー 荒木直子

AGC 旭硝子（以下 AGC）は、ガラス、化学、セラミックスなどの分野で培ったコア技術をもとに、世界中のお客様へ高品質・高付加価値製品を提供している。また、AGC は約 60 年にわたり積極的に海外進出を行っており、当初から一貫して現地と共存共栄を図ることを基本姿勢としてきた。その精神は 2011 年に決定したブラジルでの新規事業展開にも受け継がれており、AGC グループの成長を追求するだけでなく、善き企業市民としての社会的責任を果たすべく、ブラジル社会が抱える課題にも向き合っている。

ブラジルとともに成長を目指す

AGC は“善き企業市民として、事業を展開する社会と地域に対する責任を果たす”ことを「AGC グループ企業行動憲章」において宣言している。また「2020 年のありたい姿」でも、新興地域の発展に寄与することを掲げている。こうした方針のもと、新興諸国などで新規事業を計画する際は、その地域の成長とともに AGC グループも成長・発展する施策を推進している。

その具体例がブラジルだ。昨年、AGC はガラス事業でブラジルへ進出することを決定し、2013

年稼働開始を目指して、現在サンパウロ州に工場を建設中である。このプロジェクトでは「ブラジルとともに成長を目指す」をスローガンとして掲げている。そのため、高品質・高付加価値製品を提供し快適な生活の実現を目指すとともに、急速な経済成長が進む同国の環境問題や社会的な課題へも目を向け、その解決に貢献していくことで、AGC グループも発展していくという姿勢を基本としている。

環境問題については、経済成長が進む中でエネルギーや自然資源の消費が拡大しており、その対応が急務となっている。そこで、建設中の工場には南アメリカ地域では最新の排煙処理施設を導入するほか、エネルギーや水の使用量削減に寄与する最新技術を投入することとした。

一方、社会的な課題については、現地の行政やいくつかの NGO との対話を通じてその把握に努めた結果、格差の拡大による貧困問題が深刻であること、さらに、人々が貧しさから抜け出せない理由の 1 つに教育の問題があることが明らかに

2020年のありたい姿

AGCグループは、
「持続可能な社会に貢献している企業」として、

- 差別化された強い技術力を持ち、
- 製品のみならず、生産工程・事業活動全般に亘って環境に配慮し、
- 新興地域の発展にも寄与する、

高収益・高成長のグローバル優良企業でありたい。

AGCグループ社会貢献基本方針の重点分野



人づくり

将来を見据えて価値を創造する私たちは、未来を担う子どもたちが夢に向かって成長できるよう支援します。



地域との共生

地域社会の一員である私たちは、その持続的な発展に貢献します。



自然環境への貢献

グローバルに事業を行う私たちは、地球規模の環境問題の解決に貢献します。

なった。同国では就学率は比較的高いものの、家庭の理解不足や学校の教育環境の不備から落第・退学する子どもが多く、条件の良い仕事に就くために必要な教育を受けられないまま社会に出てしまうのである。

AGCは社会貢献基本方針で3つの重点分野を定め、その1つである「人づくり」において、未来を担う子どもたちが夢に向かって成長できるよう支援することを掲げている。そこで、この方針と現地ニーズに照らし合わせ、貧困問題の解消に向けて、子どもや青少年の教育支援に中長期で取り組むことを決めた。具体的には、「アイルトン・セナ財団」、「カサ・ベタニア」という2つの団体とパートナーシップを組み、次の活動を展開することとした。

公立学校教育の質の向上をサポート

ブラジルの国家的英雄であるF1ドライバー、アイルトン・セナの遺志を継ぎ、1994年に設立された財団法人「アイルトン・セナ財団」は、公立学校教育を改善するためのプログラムをブラジル全土で展開している。



AGCグループ石村和彦CEO(右)とアイルトン・セナ財団代表ヴィヴィアン・セナ氏(左)

AGCは同団体と提携し、工場稼働予定のグアラティンゲタ市において、教員研修や教材の改善など、教育環境の改善に取り組んでいる。同市自治体の協力のもと公立学校の課題を調査し、同市に最適なプログラムを編成した。具体的には、教育の質を高めるための教員トレーニング、低学年児の基礎能力づくり、中学年児の読み書きの遅れの補完、高学年児や高校生の学習意欲向上および社会的規範の習得のためのプログラムに段階的に取り組んでいく。

貧困地域での就学・就業支援

「カサ・ベタニア」は、グアラティンゲタ市の最貧地区の子どもたちを対象に、就学支援活動を30年以上にわたって実施している。ブ



「カサ・ベタニア」の施設で遊ぶ子どもたち
(写真提供：Mr.Moises Moraes)

ラジルの義務教育は主に午前か午後の2部制であり、同団体は、子どもたちが学校授業のない時間を有意義に過ごすための施設を運営している。食事の提供による栄養補給や、課外授業による学習の遅れの補完だけではなく、子どもや青少年を暴力や薬物などの誘惑から保護する役割も担っている。

AGCは、同団体の定員拡充を支援し、より多くの子どもたちがケアを受けられるようサポートしている。さらに職業訓練所を新設し、15～18歳の青少年60名に対し社会参加の重要性や倫理観の習得、語学・数学・会計などの学習、各種作業の訓練を進め、就業支援も行っている。

高収益・高成長のグローバル優良企業であるために

環境や貧困の問題解消に貢献し、人々がより一層安心して暮らせる豊かな社会が実現すれば、そこで事業を行うAGCグループも成長することができる。人々が必要な教育を受け、能力を伸ばすことができれば、優秀な人材をグループのメンバーとして採用することもできる。さらに、このような取り組みを通じて現地との信頼関係を構築することは、安定した事業運営にもつながる。

AGCは、高収益・高成長のグローバル優良企業であるために、今後とも事業を展開する国や地域と積極的に共存共栄を図り、持続可能な社会に貢献していきたいと考えている。

◆旭硝子株の社会貢献活動

<http://www.agc-group.com/csr/index.html>